

● 2017 年の世界の主な火山活動

平成 29 年（2017 年）に噴火が報告された主な火山（日本を除く）*は図のとおりである。
このうち顕著な活動がみられた火山は以下のとおりである。

エトナ（Etna） イタリア（図中 A） 標高 3,330m

3 月 16 日に、溶岩流の先端部が雪に覆われた場所に接触したことによるマグマ水蒸気爆発が発生した。報道によると、この爆発でおよそ 10 人が負傷した。

フエゴ（Fuego） グアテマラ（図中 B） 標高 3,763m

噴火が続くフエゴでは、5 月 5 日から新たな活動期に入り、それは 2012 年以降の活動の中でも最も激しい活動期であることが報告された。降灰も多く、多くの地域で報告されており、溶岩流は 2～3 km 流れた。報道によると、この活動に伴い約 300 人の住人が避難した。

シナブン（Sinabung） インドネシア（図中 C） 標高 2,460m

噴火が続くシナブンでは、8 月 2 日の 08 時から 12 時までに 17 回の火砕流が発生し、東南東に 4.5 km まで流下した。この活動に伴い約 7,000 人の住人が避難した。

ディエン高原（Dieng Volcanic Complex） インドネシア（図中 D） 標高 2,565m

7 月 2 日に火口湖で水蒸気爆発が発生し、泥や噴出物が 50m 以上まで噴出した。ニュース記事によると、この噴火で周囲にいた 4 人が負傷した。

アグン（Agung） インドネシア（図中 E） 標高 2,995m

アグンでは、11 月 21 日に噴火が始まった。ダーウィン VAAC によると、衛星データによる解析では、噴煙が海拔 9.1 km の高さまで上昇した。ニュース記事によると、ロンボク国際空港やングラ・ライ国際空港が閉鎖された。火山泥流は 11 月 21 日から観測され続けており、家屋や道路、農地に影響を与えた。その後も噴火が継続し、12 月 25 日現在、避難者数は 71,045 人となった。

アオバ（Aoba） バヌアツ（図中 F） 標高 1,496m

アオバでは噴煙や降灰が確認され、9 月 26 日にバヌアツ政府は緊急事態を宣言した。9 月 27 日のニュース記事によると、約 8,000 人が避難した。



図 平成 29 年（2017 年）に噴火した主な火山（日本を除く）*

* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ“Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。